

九州ネット

12月9日

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

大分県開催<とり天ラウンド>

H29.12.9(Sat)

ホルトホール大分

平成29年度九州ネットワーク研究会「とり天ラウンド」が大分県で開催されました。県外から9名、県内から16名、合計25名の方々の参加をいただき、内容の濃い、充実したラウンドとなりました。

1 本県の授業実践報告

①玖珠町立塚脇小学校 沢田隆明教諭

4年生の「体づくり運動」の授業で、指導者が例示した基本の運動（習得）を基に、用具や姿勢などを工夫して新たな動きを創造（活用）していく授業づくりが報告されました。参加者からは、「工夫の視点を明確化することで、既習の動きとの関連を踏まえた主体的な学習につながっていて参考になった」との感想が出されました。



②日田市立日隈小学校 矢野治郎教諭

4年生の「ハンドボール」の授業で、ボール操作能力を高めるための遅延装置・器具の活用、空いた空間を具体的に理解できるようにするための場の工夫など、参考になる報告でした。ハンドボールは、学習した動き以外の様々な状況が出現するため、「どのような系統で授業づくりを考えていけばいいのかが難しい」との課題も挙げられました。



2 トピックス：「わかるとできる」をつなぐ体育の授業づくりについて

佐藤豊先生から、『「具体」と基になる「概念」が往還しながら深い理解につながっていくので、それを引き出すためには、思考活動を重ねていきながら、ある事実と事実の結合の爆発を起こさせるようなしかけが大切。そのためには、運動の行い方のコツ・ポイント（具体知）や、それを体感させて高めていく場など（方法知）の工夫だけでなく、それらのおもとなる「概念知」をセットで考えていく必要がある』との提起がありました。

3 ワークショップ・ポスターセッション：「概念知—例示—方法知—具体知」のつながりから授業を考える

提起を受け、グループごとにワークシート作成を行う対象校種と領域を決め、授業で伝えている「コツ」と「行い方」と「最終的に伝えたいこと」とがどうすれば繋がるかについて、指導要領解説に示されている例示との関連も踏まえてアイデアを出し合い、最後に発表し合って交流しました。ゴール像（概念）から例示→方法知→具体知を考えていくことは、知識と技能の構造の整理ができるだけでなく、最終的に「何のためにその学習を行うのか」を捉え直す貴重な機会となりました。一方で、概念知について、クローズドスキルの領域は整理しやすいが、ゴール型やネット型は種目ごとに特性が異なるため、整理分類に苦慮する場面もありました。しかし、このような課題を基に、今後何を大切に授業づくりを考えていけばよいのかを佐藤先生からご示唆を頂いたのではないかと思います。



4 終わりに

会の冒頭に発表していただいた2名の先生も、本会のテーマに即して報告を作成していただいております。そのような実践が積み重なっていくことで、今後更に授業改善が進んでいくとも思いました。参加してくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

★運動系はハンドボールを打って得たものを

学年	小⑤	領域	バスケット領域の内容	ソフトボール
概念知	コア・コンセプト	解説例示	方法知 高め方・場の工夫	具体知 コツ・ポイント
点と点	打つ	ボールをフィールド内に打つ	・Tボールで行う ・フィールドグラブ ・打てはいいゾーン	・ボールを奥まで飛ばす ・「フルスイングでスイング！」
点と点	走る	ベースに向かって全力で打つ	・守備をみながら走る ・場の工夫	・守備の人の集まり具合を見ながら「右でベースを打て守備の人」
点と点	点と点	向かってボール正面に移動する	・素早いソフトボールを使う ・全員でタッチ	・ボールに向かって直線で行く ・「ゴールでゴール！」